

中国のトフティさんにサハロフ賞

欧州議会は 12 月 18 日、今年の「思想の自由のためのサハロフ賞」を中国の経済学者、イルハム・トフティさんに授与すると発表しました。

イルハム・トフティさんは、北京の中央民族大学で教鞭をとる傍ら、ウイグル人と漢人の民族間の和解を図る取り組みやインターネットでの発信をしてきましたが、国家分離罪で終身刑を受け、6 年近く投獄されています。

授賞の発表にあたり、欧州議会議長は、「イルハム・トフティさんは、少数民族の権利擁護に生涯をかけてこられた。欧州議会は、中国政府に対して、同氏の釈放と少数者の人権尊重を強く求める」と訴えました。

アムネスティ・ノルウェー支部は、イルハム・トフティさんの娘、ジュウェル・イルハムさんのビデオメッセージを支部の [フェイスブック](#) に投稿しました。



@Amnesty International

「2013 年から会うことができず、14 年から声を聞くこともできず、17 年からは安否を知ることができません・・・」

と悲痛な心境を語るとともに、一刻も早い釈放を訴えています（音声は英語）。

トフティさんがサハロフ賞の受賞したことで、その不当な投獄に、あらためて世界の注目が集まり、中国政府に圧力がかかることが期待されます。

米国：スコット・ウオレンさんに無罪

非正規移民に食物などを差し出して罪に問われていた人道支援ボランティア、スコット・ウオレンさんの裁判で、裁判所は 11 月 20 日、無罪判決を言い渡しました。

アリゾナに住むウオレンさんは、砂漠の町アホをさまよう移民 2 人に食料や水を提供したのですが、この行為が法に触れるとして起訴されました。6 月の陪審員裁判では、全員一致の評決にはならなかったため、今回の裁判となりました。

アムネスティの呼びかけに応じた数万人がネットで無罪判決を求め、この求めをメディアが伝え、15 人の議員



@Amnesty International

が無罪を求める嘆願書に署名しました。これらの動きが無罪判決に繋がりました。

トランプ政権は、ウオレンさんを罰することで、非正規移民の支援に「犯罪」というレッテルを貼ろうとしたのですが、今回の裁判で否定される結果となりました。

モロッコ：ニュース記者らを釈放

違法な人工妊娠中絶をしたとして 9 月に 1 年の刑を言い渡された新聞記者のハジャー・レイソーニさんとその婚約者が 10 月 16 日、国王の恩赦で釈放されました。

その批判的な記者活動で国に目をつけられていたレイソーニさんは、婚約者とともに違法とされる人工中絶で逮捕されました。取り調べでは、私的なことを根拠り葉掘り詮索されたそうです。裁判では、当局の目論見通り、有罪判決が下されたのですが、国王が救いの手を差し伸べる形になりました。

恩赦で救われたのは 2 人だけではありません。中絶手術を行って実刑 2 年などを言い渡されていた医者らも無罪放免になりました。

もっとも、裁判が投げかけた問題は小さくはありません。表現の自由の権利や女性の中絶の権利が危うい現実を、市民につきつけることになりました。今後、各種権利の一層の弾圧につながらないように、注視していく必要があります。

パキスタン：大気汚染で市民生活の危機

パキスタンのパンジャブ州は、人口が過密な上に大気汚染が極めて深刻で、市民の健康や日常生活が脅かされる事態に陥っています。戸外で呼吸困難になったり、学校が閉鎖されたり、呼吸器疾患の患者が急増したりしています。



大気質（大気汚染）レベルは、「（健康に）良い」から「危険」までの6段階で表されますが、同州の大気質はほぼ年中、4の「良くない」または5の「極めて良くない」レベルにあります。12月前後のこの時期には、頻繁に「危険」レベルに達します。

問題の背景には、国が主導する大気測定法が、国際基準に準拠せず信頼性に欠けることや、大気汚染に対する国の危機意識が低いことがあります。

例えば、昨年5月にスモッグ対策委員会が、国に勧告を出して対応を求めても、国は動こうとしませんでした。また、市民が大気汚染のレベルを知りたくても、即時で情報を得られる仕組みになっていません。良質の燃料に切り替える取り組みも、いまだ着手されないままです。

世界保健機関によると、成長期の子どもは、大人の2倍の酸素を必要とするため、大気汚染による健康被害を受けやすいとのことです。実際、危機意識を強めた10代の若者数人が最近、「大気汚染の正確な情報は人命の軽視だ」として、訴訟を起しました。

みなさん、パキスタン政府に大気汚染対策を直ちに取るよう求めてください。

ウェブサイトで「パキスタン殺人的大気汚染 要請」と入力し、表示されたUAサイト内の要請文をご利用ください。ぜひ、ご支援をお願いいたします。

ミャンマー：映像作家の批判を封殺

同国で名を知られた映像作家のミンティンコジョーさんが、長期間、投獄されるおそれが出てきました。フェイスブックで国軍を批判して今年4月に逮捕され、秩序騒乱罪で実刑1年の判決が確定しました。さらに、別の容疑でも罪を問われており、刑期が4年加わるおそれがあります。

フェイスブックで憲法批判や政治に介入する国軍を批判しただけです。言論弾圧の体質が、今も変わっていないミャンマーの状況を示しています。

ミンティンコジョーさんは、年初に肝臓がんの手術を受けたため、専門医による定期的治療を必要としていたにもかかわらず、保釈が認められず、病状の悪化が懸念されます。

みなさん、ミャンマー政府にミンティンコジョーさんの即時釈放と表現の自由を抑圧する法律の見直しを求めてください。ウェブサイトで「ミンティンコジョー釈放要請」と入力し、表示されるUAサイト内の要請文をご利用ください。ぜひ、ご支援をお願いいたします。



UA ニュース

発行:アムネスティ・インターナショナル日本

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-12-14 晴花ビル7F

TEL:03-3518-6777 FAX:03-3518-6778

E-mail: uaoffice@amnesty.or.jp

UA年会費 3000円

郵便振替 00120-9-133251

加入者名 公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本